

景気動向

最近の県内景気動向

平成13年10月30日
日本銀行水戸事務所

～管内経済動向は停滞感が窺われる状況～

最近の管内経済動向をみると、製造業の生産が落ち込みを続け、企業業績の悪化等を背景に、設備投資も減少に転じている。加えて、個人消費では、比較的好調を続けていた商品の売行きに陰りもみられており、ここへきて停滞感が窺われる状況となっている。

《消費》

■9月の大型小売店の売上

狂牛病問題に絡んで、牛肉や同加工食品にマイナスの影響がみられるものの、店舗改装によるテナントの入替えや会員向けセール等の販売強化策が奏功し、秋冬物衣料が好調な売行きをみせたほか、家庭用品等の伸びも加わって、全体では12/2月以来19ヶ月振りに前年を上回った(8月▲2.9%→9月+2.5%)。

■9月の乗用車新車登録台数

一部に新型車投入効果が見られるものの、既存車種の落ち込みが目立っており、普通車(前年比▲1.6%)、小型車(同▲9.4%)ともに前年を下回った。自動車ディーラーからは、「契約成立までに、従来比時間がかかるようになった」と販売のペースダウンを指摘する声が聞かれる。

■9月の家電販売

衛星放送が受信できるテレビや乾燥機能付洗濯機といった機能追加型製品は好売行きを示しているが、新機種販売予定のパソコンに買い控えがみられたほか、冷蔵庫、エアコンで家電リサイクル法の反動減が続いており、総じて伸びが鈍っている。

■旅行取扱状況

米国同時多発テロ事件発生後、航空機利用を手控える気運が高まったため、米国をはじめ、欧州(沖縄を含む)向け予約のキャンセルが相次いだほか、10月移行新規の予約も低調に推移している。この間、旅行者者では、比較的落ち込みの少ないハワイ、グアム等向け料金の引下げや国内への振替えに努めているが、取扱高の落ち込みが避けられない状況。

《公共・住宅投資》

■9月の公共工事請負金額

国(前年比+51.4%)や市町村(同+7.7%)の増加を主因に、全体では前年を上回った(同+6.5%)。

■8月の新設住宅着工戸数

貸家(前年比+7.9%)の増加が続いているものの、主力の持家(同▲16.9%)が大幅な減少となったことから、全体では4ヶ月振りに前年を下回った。(同▲8.7%)。

《生産動向》

■7月の鉱工業生産

輸出や半導体関連需要の減退を背景に、操業度を引下げる動きが強まっており、電気機械を中心に前月を下回った(生産指数前月比:▲0.4%(原指数前年比▲6.5%))。

■7月の出荷

電気機械、輸送機械の大幅な減少を主因に、前月比マイナスとなった(出荷指数前月比:▲2.0%(同▲6.5%))。

■7月の在庫

本年入り後、緩やかに減少していたが、電気機械の需要減退から増加に転じている(在庫指数前月比:+2.8%(同+0.8%))。

■9月の産業用電力消費量

電気機械、鉄鋼、非鉄金属等で前年を大幅に下回ったことから、前年比マイナス幅が拡大した(前年比:8月▲4.7%→9月7.2%)

茨城県主要経済指標

(前年比、%)

	12年	13/7	13/8	13/9
大型小売店売上高	▲6.2	▲4.3	▲2.9	2.5
乗用車新車登録台数				
[除く軽]	2.2	6.7	4.3	▲6.4
[含む軽]	3.2	2.1	0.5	▲8.9
公共工事請負金額	▲7.5	26.1	16.2	6.5
新設住宅着工戸数	▲10.7	9.1	▲8.7	n.a.
[持家]	▲3.7	3.0	▲16.9	n.a.
産業用電力消費量	5.4	▲0.7	▲4.7	▲7.2
[大口電力]	5.8	▲1.1	▲4.9	▲7.2
鉱工業指数 [生産]	—	▲6.5	—	—
[出荷]	—	▲6.5	—	—
[在庫]	—	0.8	—	—
有効求人倍率(倍)	0.65	0.67	0.63	0.59
倒産件数	13.1	▲48.1	3.1倍	▲5.0